

## 輪島

現在タイムリーな観光スポットの1つと言っても過言ではない能登半島の輪島。最近、朝の連続テレビ小説「まれ」の舞台で、何かと話題である。「まれ」そのものの評価は人それぞれであるが、少なからず「まれ」によって輪島がものすごい恩恵を受け、ものすごいブームになったということは紛れもない事実である。そんな輪島に訪れてみたのだが、案の定、どこもかしこも「まれ」「まれ」「まれ」であった。まず一発目の洗礼は輪島に向かう途中の、『のと里山海道』でのことである。別所岳のサービスエリアを越えたあたりを車で走っていると「まれ」のオープニングテーマが道路から流れてくるのである。調べてみるとこれは「メロディーロード」と呼ばれるものであり、タイヤとの摩擦で音を発生させるよう、路面に溝を刻み、音楽が流れてくるよう細工された道路なのである。この上を時速70kmで走ると、音楽が流れてくるという仕組みになっている。正直、ここま



で力をいれるかと思ったが、「まれ」を使つての町おこしは想像を超えるものであった。もう、商店街1店舗1店舗に「まれ」のポスターが張られ、なにかにつけては「まれ」「まれ」「まれ」である。昼間、街の中を歩いている限り、そんなに人が多い様には見受けられなかったのだが、夜、食事に出かけると、どこの寿司屋も人が外に並んで待っていた。私達が入った寿司屋「伸福」も大勢の人が店の外で待っていた。店の人は、こんなにも急激な観光客の増加にまだ慣れていないせいか、少々イライラ気味ではあったものの、寿司はもう最高であった。並んで待つ価値は間違いなくある。しかし、またここでも隣に座っていた客は「まれ」の話ばかりをしていた。普段、都会で生活をしている者からしてみれば、輪島の街の雰囲気は色々と刺激的なものである。写真で見てもらってもわかる通り、情緒のある家が並んでおり、ある意味、斬新な感じがする。しかし、もう夜になると、街灯はほとんどないので、真っ暗である。私たちは民宿のような所に泊まったのだがまた朝の7時に不意打ちを食らう羽目となる。寝ていたら、突如、町内放送が鳴り始



め、また「まれ」のオープニングである。予想もしない目覚ましアラームとなった。そして何とんでもやはり輪島と言えば朝市である。民宿の方には予め言われていたことではあったが、やはり朝市には地元の間人も含め、いろいろな所からの観光客でいっぱいであり、駐車場にも色々な所からの車がいっぱいとまっていた。急激な観光客の増加に設備や準備がまだ万全ではないということが、正直、目に見えた。輪島の朝市は実に千年以上の歴史があるとのことであるが、私が実際行って見て受けた印象は露店を開いているのが女性ばかりであるということである。これは私の勝手な想像であるが、輪島では男性は海へ漁に行き、女性は街へ稼ぎに行くといった、ある種、日本昔話っぽいところがまだ残っているといった印象を受けた。この朝市が開かれている朝市通りに永井豪記念館がある。もともとマンガはまったく読まない私であるが、やはりデビルマンとかキューティーハニーと聞くとなんだかウズウズしてしまうのである。せつかく来たことだと思い、見学してみたものの5分で見終わってしまった。これで入館料500円は正直いかなものかと思うような感じはしたし、館



内は撮影禁止だったので、残念ながらたいした収穫も得ることはできなかった。永井豪ファンであるなら、行ってみても良いのではないだろうか。輪島には重蔵神社と呼ばれる大きな境内を持った神社がある。ここはかつて海女族の守り神が祀られていると言われており、いつしか輪島塗の神と朝市の神の信仰をも集めるようになったとのことだという。社伝によると、邪馬台国の時代と思われる、崇神天皇の治世に創建されたというほどの古い神社である。毎年、夏に大祭が行われるのが有名であるようだが、じつに広い境内なのである。面白いと言ってしまったら不謹慎かもしれないが、地震除けの守護神と呼ばれる要石があったり、芸能、学問の神が祀られているたぬき天神があったりなど境内のあちらこちらにいろいろなものが祀られていて、目的に沿って訪れる参拝客も多いのではないだろうか。また境内の中に立っていた説明書きには『重蔵さん』へは通常、月の初めに参拝するものと書いてあった。これまでの無事を感謝し、新たな月への家内安全、商売繁昌、交通安全、心願成就を祈るものだという。そう考えるとやはり、月初めに訪れて一気に全部廻ってお参りするというのが正しい参拝方法なのかも知れない。重蔵神社絡みでいえばもうひとつあったの



が神様井戸(みたらしの井)である。重蔵神社に祀られている神(天の冬衣命?)が輪島に上陸した時、ここで休泊し、ここで汲んだ井戸水をご利用になられたとのこと。面白いのがこの井戸、人通りのない通りで、電話ボックスのすぐとなりにポツンとあるのである。電話ボックス自体もものすごく久々に見たのだが、神聖であるべき場所が電話ボックスと一緒に道の真ん中にポツンと佇んでいるというシュールな画はなかなか面白かった。輪島と言って、忘れるわけにいかないのが、輪島塗である。瀬戸物や漆の類に関して、何も知らない私であるが、輪島塗会館でみた輪島塗は恐ろしいほどに高級感があって美しかった。残念ながらこちらも館内の輪島塗はすべて撮影禁止であったので、輪島塗会館の外観の写真だけ張らせて頂きたい。そもそもこの輪島塗会館を訪れた理由であるが、地元の人に『本物の輪島塗』が見たいと言って、教え



て頂いたのである。というのも、街中を歩いていて気付いたのだが、面白いことに、『輪島塗』という名目で売られている商品はあちらこちらにあり、様々な値段がついている。これは九谷焼でも同じことが言える。とりわけ人がたくさん集まるような観光スポットの土産物屋では『お手頃価格な輪島塗』が充実している。ちなみにこの輪島塗会館で展示、販売されている輪島塗はなかなかのお値段である。一口、数万円から数十万円するようなものばかりである。器にゆっくり顔を近づけてみると、なんとも、綺麗な朱色である。だが、自分も確かに、本物の輪島塗と赤いプラスチックの器見せられて、どちらが本物か聞かれても当てられる自信はあまりない。輪島塗といえば、街の中に湯楽里という足湯があるのだが、そこに輪島塗地藏菩薩というのがある。説明書きによると、地藏菩薩というのは「無法の時代の救済者」とされており、この「無法の時代」にあえて自ら輪廻に残り、この世で苦しむ人々を救うことを務めとしているのだという。輪島塗地藏菩薩はこの地に温泉が湧き出たことに感謝するとともにこの地域の安泰を見守ってもらうために建立されたとのことである。ここで湧き出た温泉をかけて、お参りをすると願い事を叶えていただけるとのことであ



る。「輪島塗地蔵菩薩」と名付けられているだけあって、地域発展の願いが込められており、地蔵は輪島塗が施されているのだそうである。私もそう書かれていたので、祠に顔を近づけて、目を凝らして確認してみたのだが、曇っていて何も見



えなかった。輪島は地理的に見てもすごく辺鄙な場所にあるのだが、普段都会で生活している身からすればなかなかワクワクするような街の雰囲気でもある。また古くからの伝統や文化も非常に重んじているといった印象も受けた。ただやはり、「まれ」の恩恵を受けていて、あくまで今はブームで人が騒いでしまっていると言われてしまっても仕方はない。

「まれ」の放送が終了した今、残念なことではあるが、観光客は少しずつ減っていくことになるのではないだろうか。これからの地域活性化が問われることになるはずである。

ウェバー伊安